

古代東アジアの歴史と交通

研究の概要

本研究では、三世紀から六世紀にかけての東アジアの外交・交流を扱います。

この時期、中国では三国時代から南北朝時代にあたり、中国国内が分裂し、いくつもの国が諸外国を味方につけるための外交戦を行っていました。

日本では、卑弥呼が「親魏倭王」の印を受け取ってから、遣隋使が派遣されるまでの、国家形成の時代にあたります。日本だけでなく、朝鮮半島や中国東北部、モンゴル高原やチベット高原といった、東アジア全体で活発な外交が繰り広げられていました。

まだ通信・交通の手段が限られていた古代の外交を明らかにすることで、東アジアでの国や民族の相互理解がどのように始まり、進展したのかを知ることができます。

キーワード



- 東アジア史
- 中国
- 三国志

連携アピール



日本の文化の多くは中国大陸からやってきたものです。

中国の歴史・文化を知ることによって、逆説的に日本という国のアイデンティティを明らかにできるのではないのでしょうか。

研究者



堀内 淳一 教授 博士（文学）

HORIUCHI Junichi  文学部国史学科

